

第153回  
日耳鼻長崎県地方部会学術講演会  
【プログラム・抄録集】



平成29年4月9日（日）午前9時55分～  
長崎大学医学部 良順会館（ボードインホール）



## ご案内

---

【会 場】長崎大学医学部 良順会館 2F（ボードインホール）

【緊急連絡】耳鼻科医局：095-819-7349

耳鼻科病棟：095-819-7391

【駐車場】医学部駐車場を利用できますが、スペースに限りがありますので、  
長崎市内の方はできるだけ公共交通機関でお越しください。

【専門医】学術集会参加報告書（平成29年度用）をご提出下さい。

## 演者の方へ

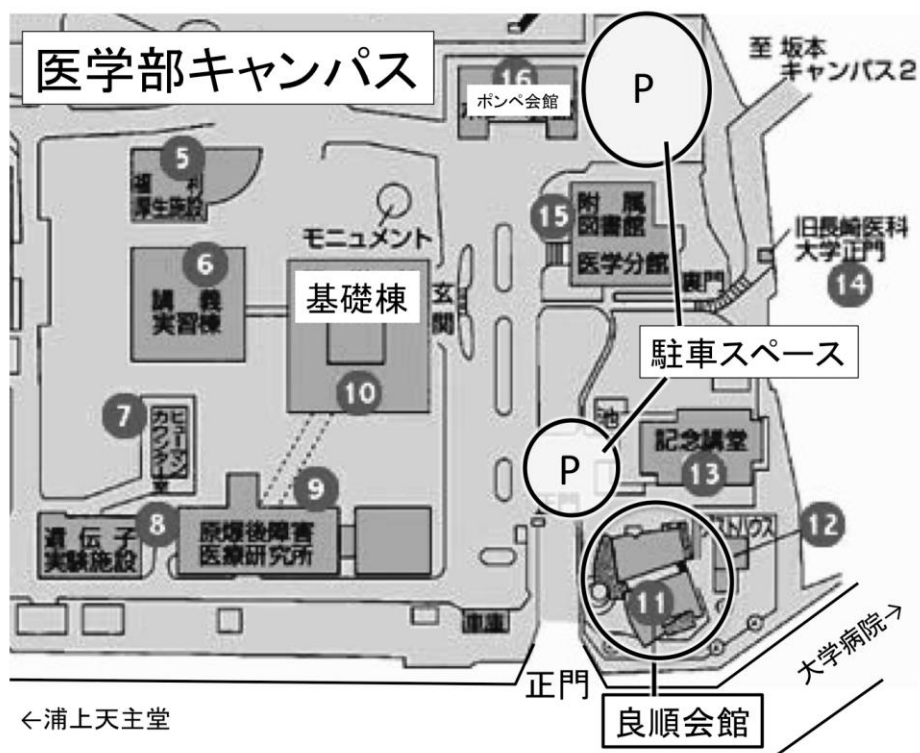
---

【発表時間】1題10分（発表7分、質疑3分）時間厳守

【発表PC】Windows10、PowerPoint2016

\* 事前にWindows PCで文字ズレ・文字化けの確認をしてください。

\* データはUSBフラッシュメモリ等でご持参の上、開演15分前までに、  
所定のPCに保存し、動作確認を済ませてください。



**【会長挨拶】9:55～10:00**

高橋晴雄（長崎大学）

---

**【一般演題】**

**第Ⅰ群：10:00～10:30**

座長 隈上秀高（長崎原爆病院）

---

I-1 ベトナム・ニャチャン市における滲出性中耳炎有病率

佐藤智生（長崎大学）

I-2 水痘帯状疱疹ウイルスによる舌咽・迷走神経麻痺を来した症例

松本浩平（諫早総合病院）

I-3 薬物睡眠下内視鏡検査が治療方針決定に有用であった喉頭狭窄症の1例

木原千春（長崎大学）

**第Ⅱ群：10:30～11:00**

座長 坂口功一（長崎大学）

---

II-1 トルコ鞍空洞症の1例

田中藤信（長崎医療センター）

II-2 分子標的薬が奏功した根治切除不能甲状腺癌の1例

山本昌和（佐世保市総合医療センター）

II-3 当科で経験した鎖骨骨頭切除法を用いた上縦隔へのアプローチの検討

前田耕太郎（長崎大学）

## 【特別講演】11:00～12:00

座長 高橋晴雄（長崎大学）

---

中耳真珠腫の成因・進展を、遺伝子の発現変化や調節機構から考える  
工 穰（信州大学医学部 耳鼻咽喉科 准教授）

## 【平成 28 年度日耳鼻長崎県地方部会総会】12:00～12:10

司会 原 稔（長崎大学）

1. 会計報告
2. 連絡事項、その他

## 【平成 28 年度日耳鼻全国会議代表者会議報告】12:10～12:50

- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 専門医制度      | 高橋晴雄             |
| 2. 保険医療委員会    | 吉見龍一郎・隈上秀高・山野辺滋晴 |
| 3. 福祉医療委員会    | 橋本 清             |
| 4. 乳幼児医療委員会   | 神田幸彦             |
| 5. 学校保健委員会    | 宗 英吾             |
| 6. 医事問題委員会    | 本川浩一             |
| 7. 産業・環境保険委員会 | 金子賢一             |

## 【閉会】

---

\* 当日は地方部終了後、同会館 1F（専齋ホール）にて 13 時 15 分から  
平成 29 年度補聴器相談医資格更新のための講習会を予定しています。

## 【一般演題】

---

### I-1 ベトナム・ニャチャン市における滲出性中耳炎有病率

○佐藤智生、原 稔、金子賢一、高橋晴雄（長崎大学 耳鼻咽喉科）  
樋泉道子、吉田レイミント（熱帯医学研究所 小児感染症学）

ベトナム・ニャチャン市における滲出性中耳炎有病率を調査した。都市部、非都市部よりランダムに抽出された4ヶ月から24ヶ月の小児619名の右耳を携帯耳鏡により調査した。結果9.0%（95%CI：6.85～11.21%）に滲出性中耳炎を認めた。ベトナム・ニャチャン市では肺炎球菌ワクチンの集団接種効果を検討する大規模な研究が行われており、この研究はワクチン接種前調査の一部として行われた。中耳炎の調査はワクチン接種後も継続して行う予定であり、今回はその第一報として報告する。また、肺炎球菌ワクチンのプロジェクトについても紹介する。

#### 【参考文献】

Humaid, A.-H.I., et al. Prevalence and risk factors of Otitis Media with effusion in school children in Qassim Region of Saudi Arabia. *Int. J. Health Sci.* 2014; 8; 325-334  
Pau, B.C., Ng, D.K. . Prevalence of otitis media with effusion in children with allergic rhinitis, a cross sectional study. *Int. J. Pediatr. Otorhinolaryngol* 2016; 84; 156-160

---

### I-2 水痘帯状疱疹ウイルスによる舌咽・迷走神経麻痺を来した症例

○松本浩平、塚崎尚紀（諫早総合病院 耳鼻咽喉科）  
福本尚子、西浦義博（諫早総合病院 神経内科）

水痘・帯状疱疹ウイルス（Varicella-Zoster Virus：以下VZV）は幼少期に初感染し、全身の皮膚に水泡を形成する。その際VZVは皮膚、粘膜病巣の知覚神経終末より神経内に進入し、軸索内を逆行性に進み、神経節に潜伏する。精神的・身体的ストレスや免疫力低下に伴い潜伏していたVZVが再活性化し、神経線維に沿って神経痛を伴う疱疹を形成すると帯状疱疹と呼ばれる。

耳鼻科領域ではVZVの感染・再活性化により耳介の疱疹と第七・第八脳神経障害を三主徴とする病態をHunt症候群と呼ぶが、ときにその他の下位脳神経障害を呈する症例に遭遇する。

今回われわれはVZVによる舌咽・迷走神経麻痺を来した症例を経験したので、若干の文献的考察を加えて報告する。

#### 【参考文献】

畑 裕子、他：水痘帯状疱疹ウイルス感染による声帯麻痺2例の検討. *耳鼻臨床* 2008; 101; 611-615  
坂根さやか、他：水痘帯状疱疹ウイルスによる喉頭麻痺例. *耳鼻臨床* 2014; 107; 399-404

## 【一般演題】

---

### I-3 薬物睡眠下内視鏡検査が治療方針決定に有用であった 喉頭狭窄症の1例

○木原千春、金子賢一、高橋晴雄（長崎大学 耳鼻咽喉科）  
吉嶺裕之（井上病院 呼吸器内科）

薬物睡眠下内視鏡検査（Drug-induced sleep endoscopy: DISE）は閉塞性睡眠時無呼吸症候群における上気道の閉塞部位診断や治療効果判定を目的として海外では広く行われているが、本邦での報告はまだ少ない。今回、重症の睡眠時無呼吸を有する喉頭狭窄症例に対し、DISE を施行し責任病巣を特定した。両側声帯麻痺に加え、睡眠下では披裂部の余剰粘膜が引き込まれ声門を被覆する所見が得られた。披裂部の余剰粘膜切除により睡眠状態が改善し、良好な経過を得ている。

#### 【参考文献】

E. De Corso, et al: The role of drug-induced sleep endoscopy in the diagnosis and management of obstructive sleep apnoea syndrome: our personal experience. Acta Otorhinolaryngol Ital 2013; 33: 405-413

---

### II-1 トルコ鞍空洞症の1例

○田中藤信、奥 竜太、加瀬敬一、久永将史（長崎医療センター）

Primary empty sella トルコ鞍空洞症は無症状で偶然発見されることが多く。症状がある場合は、髄液鼻漏、視力・視野障害、頭痛などがある。今回われわれは髄液鼻漏で発症し、保存的治療で症状改善した症例を経験した。症例は50歳女性で水様性鼻漏を主訴として近医耳鼻科を数か所受診、アレルギー性鼻炎に対する治療を受けるも症状増悪していった。右側優位であり、鼻汁が多量であることから髄液鼻漏を疑われ当科に紹介となった。脳神経外科と協力し、保存的治療で症状改善しえた症例を経験したので文献的考察を加え報告する。

#### 【参考文献】

栗原 淳、他：神経・精神 empty sella 症候群、小児科診療 2016：79；98

秋山恭彦、他：下垂体疾患 診断と治療法の進歩 Empty sella 症候群、日本臨床 1993：51；2731-2736

## 【一般演題】

---

### Ⅱ-2 分子標的薬が奏功した根治切除不能甲状腺癌の1例

○山本昌和、安達朝幸、高島寿美恵、西 秀昭、藤山大祐  
(佐世保市総合医療センター)

近年、多くの分子標的薬が開発され種々の癌に対する治療選択肢が広まってきた。甲状腺癌に対してはソラフェニブ (sorafenib : SOR) やレンバチニブ (lenvatinib : LEN) などが適応となっている。今回、我々は根治切除不能と判断された甲状腺癌に対し、分子標的薬による治療を行い奏功した症例を経験したので若干の文献的考察を加えて報告する。

#### 【参考文献】

Naomi Kiyota : Current status and future perspective of molecular targeting treatment for differentiated thyroid cancer. 内分泌甲状腺外会誌 2016 : 33 ; 140-144

---

### Ⅱ-3 当科で経験した鎖骨骨頭切除法を用いた上縦隔へのアプローチの検討

○前田耕太郎、金子賢一、坂口功一、高橋晴雄 (長崎大学)

甲状腺手術において、上縦隔に進展する症例では、術野を確保するために鎖骨や胸骨を処理する場がある。上縦隔にアプローチする方法としては、胸骨柄切離法 (killian法)、胸骨正中切開法など様々あるが、鎖骨骨頭切除は、低侵襲で行うことができ、症例によっては非常に有用であると考えている。本術式は、上縦隔における手技の手助けになると同時に、鎖骨、第1肋間の筋、靭帯を温存することで、肩関節の前方への偏位を予防できる。また、温存した前頸筋群や皮膚を骨切除部に落とし込むことで、死腔を防ぎ合併症を軽減、QOLを維持できると期待されている。当科で経験した鎖骨骨頭切除を用いた8症例について比較検討し、報告する。

#### 【参考文献】

花井信広 : <<手術手技>>上縦隔郭清. 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 2016 : 88 ; 858-66

河西信勝 : 甲状腺切除のテクニックと患者管理. 医学書院 1987



## 【特別講演】

### 中耳真珠腫の成因・進展を、遺伝子の発現変化や調節機構から考える

○工 穰（信州大学医学部 耳鼻咽喉科 准教授）

中耳真珠腫の成因・進展については多くの研究がなされているが、いまだ細部まで解明されてはいない。腫瘍の発生においては様々な遺伝子発現が関係していることが明らかにされてきているが、真珠腫に関してはケラチノサイトなど未だいくつかの遺伝子発現上昇についての報告が散見される程度である。DNA マイクロアレイ技術を用いた網羅的発現解析に関する研究も進んでいるが、組織特異的あるいは疾患特異的な遺伝子発現までは未解明である。

ヒト遺伝子は約2万2千個であるが、その10~20倍のmRNA スプライシング・バリエントが半数以上の遺伝子に存在し、組織特異性や疾患特異性を高めているとされている。DNA マイクロアレイ技術の発展により、それぞれの遺伝子の個々のエクソン毎にプローブが設計されたエクソンアレイが開発され、各エクソン部分の発現差異を調べることで転座やスプライシング・バリエントの検出が可能となっている。

一方で、DNA 配列そのものを変更せずに遺伝子発現を調節する遺伝性の修飾であるエピジェネティックな DNA メチル化は、幅広い生物学的プロセスや遺伝病の調節メカニズムとして機能しており、不規則なメチル化パターンはある種の癌と相関があることが明らかにされているが、真珠腫組織におけるメチル化パターンは未だ明らかにされていない。CpG アイランドおよびプロモーターマイクロアレイの開発により、全ゲノム規模での DNA のメチル化の検出や、遺伝子発現調節および調節ネットワークの発見と確認、DNA メチル化に関連する分子の発見と特徴分析、DNA メチル化と転写制御によるターゲット遺伝子の作用機構および治療活性の解明などが可能となっている。

以上より、1) ヒトゲノムエクソンアレイを用いた中耳真珠腫組織における mRNA スプライシング・バリエントの検討、2) CpG アイランドおよびプロモーターマイクロアレイを用いた中耳真珠腫組織における DNA のメチル化検出を試み、中耳真珠腫の成因・進展について遺伝子の発現変化や調節機構から検討してみた結果を紹介する予定である。